

# 令和4年度

## 大府市有識者懇話会の概要



# 1 有識者懇話会のあらまし

## 1 有識者懇話会の目的

第6次大府市総合計画及び令和4年施政方針の重要施策の推進に当たり、専門家から3～5年後を見据えて今取り組むべきことについて先進的な政策提言を受け、本市の施策に取り入れ、令和5年度予算に反映する。

## 2 有識者懇話会の実施方法

令和3年度から実施。令和4年度は、テーマを3つに絞り、重点的に市長とテーマごとの有識者3人で意見交換した。ファシリテーター（進行役）には、一般社団法人地域問題研究所の池田哲也事業部長を迎えた。まず有識者から15分の市政提案を行った後、フリートークを行った。また、オブザーバーとして、副市長、教育長、関係部長が参加した。



### 日程及び分野

回	日 時	テーマ
1	令和4年6月27日（月）14：00～16：00	人生100年時代を見据えた 高齢者施策について
2	令和4年7月21日（木）10：00～12：00	環境問題への取組について
3	令和4年7月28日（木）14：00～16：00	バイオリンの里構想の推進について

### 市長との懇話会参加者

（敬称略）

回	参加者
1	斎藤 民（国立長寿医療研究センター 老年学社会科学研究センター） 齊藤 千晶（認知症介護研究・研修大府センター 主任研究主幹） 堀川 宣和（星城大学経営学部講師）
2	近藤 元博（愛知工業大学総合技術研究所教授） 原 理史（中部大学中部高等学術研究所国際ESD・SDGsセンター研究員） フンク カトリン（NPO法人HAPPY PLANET代表、 日本特殊陶業グローバル戦略本部）
3	井上 さつき（愛知県立芸術大学・東京芸術大学等非常勤講師：オンライン） 小川 容子（岡山大学大学院教育学研究科副研究科長：オンライン） 近藤 薫（東京フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター）

## 2 各委員からの提案内容

### 第1回 人生100年時代を見据えた高齢者施策について【6月27日】

#### 斎藤 民（国立長寿医療研究センター 老年学社会科学センター）

##### 産官学民の4者連携等による健康施策

- ・ 保健医療福祉の分野では、産官学民の連携の他、多職種連携＋多部署連携が必要不可欠である。それ以外の分野でも必要に応じて、連携が不可欠である。

##### 0次予防戦略による健康づくり

- ・ 「自然に健康になってしまう」、「意図せず健康になってしまう」といったことを狙っているのが、0次予防戦略である。心身機能が低下すると環境の影響を受けやすいため、誰にでも快適な環境づくりをすることが、次の時代の健康づくりだと考えられる。

##### 皆に優しい、認知症の方にも優しいまちづくり

- ・ 認知症の方の理解を深める認知症サポーター養成講座を開催しているが、これからは、支援意識向上のため、認知症の方との交流機会を増やすことが必要である。

#### 齊藤 千晶（認知症介護研究・研修大府センター 主任研究主幹）

##### 若年性認知症の方への支援

- ・ 若年性認知症の方が今まさに抱えている課題である働くことや社会参加をどう支えていくのかという視点が今後の高齢者施策についても重要である。
- ・ 症状進行などを考慮してそれぞれの時期に合った切れ目のない支援を進めていくことが大事である。
- ・ 認知症の方と一緒に楽しい時間を共有することが大事である。
- ・ ICTを活用して就労的活動の場を提供できる事業所と働くことを希望する認知症の方や要支援者とマッチングする仕組みがあるとよい。

#### 堀川 宣和（星城大学経営学部講師）

##### eスポーツの実施における高齢者との相性や社会性の可能性

- ・ eスポーツは、多くの社会課題を解決する可能性を持つコンテンツなので進めるべき。
- ・ eスポーツで人が育つのは「アマチュア・プレイヤー」を目指した瞬間からだと思う。日本では、アマチュア用の公式試合の環境がない。eスポーツ団体と行政、企業で実現できると考えている。
- ・ eスポーツは他のスポーツと比較して、身体的なハンデをあまり意識する必要がない点から、ユニバーサル・スポーツと言える。eスポーツは、認知症抑制、リハビリ、介護予防に有効で、若者と高齢者のコミュニケーションツールにもなりうる。
- ・ 高齢者のeスポーツ大会を目標に日々のeスポーツの練習を通じて、地域の若者や子どもと交流する環境を作るとよい。

## 第2回 環境問題への取組について【7月21日】

### 近藤 元博（愛知工業大学総合技術研究所教授）

#### 地域内ステークホルダーとの連携強化による環境問題への対応

- ・ 地産地消型再生可能エネルギー利用を実現することで、地域資源を使った持続可能な魅力ある社会が実現される。
- ・ 知多半島5市5町でビジョンを共有し、地域全体でカーボンニュートラルの実現を目指してほしい。この地域が国内有数のゼロカーボンの地域となることで、新たな産業も創出できるのではないかな。

#### 地域活性化と環境の両立

- ・ 消費者の行動変容を促せるようなポイント制度も導入してはどうか。消費者と事業者のWIN-WINの関係ができると環境にやさしいまちが実現される。

### 原 理史（中部大学中部高等学術研究所国際ESD・SDGsセンター研究員）

#### ゼロカーボンの推進

- ・ 人間は直観で動くもので、必ずしも合理的な行動を選択するわけではない。直観の傾向を踏まえて働きかけを行い、行動変容を促す必要がある。個々の行動の見える化は、行動チェックリストを用いるなど、それぞれの行動にあった手法をきめ細かに考える必要がある。
- ・ 地域の「くらし」や「なりわい」はそのまま地球に結びつき、大府市は、地球文明の一員であり、その振る舞いの品が求められる。全体の環境意識の底上げが重要である。
- ・ 市職員には、市民に持続可能性の主役であることを伝える役目がある。また、環境部門だけでなく、様々な部門の人を巻き込んで、様々なレベルでゼロカーボンに取り組むべきである。

### フंक カトリン（NPO 法人 HAPPY PLANET 代表、日本特殊陶業グローバル戦略本部）

#### 気候変動から考える環境施策

- ・ 石油・石炭等の化石燃料に課税し、地球温暖化を引き起こすCO<sub>2</sub>の排出を抑制する「炭素税」を導入してはどうか。
- ・ 再生可能エネルギーへの投資を拡大する目的で、①新築の屋根に太陽光パネル設置を義務化し、既に設置済みの建物にはインセンティブを提供すること、②市民が自宅の電気を再生可能エネルギー事業者に切り替えるための補助金を提供することなどの事業を導入してはどうか。
- ・ 市民、企業、研究機関と連携し、全ての機能を統合しながら直線型から循環型経済への移行を推進する都市を指す、「サーキュラーシティ」を目指してはどうか。
- ・ 学校は学ぶだけの場所ではなく、自分が人生で何がしたいか、何が強みなのかを見つける場所でもある。自分の意見を持つことは、社会を形成し、積極的な市民となるためにとても大切である。

### 第3回 バイオリンの里構想の推進について【7月28日】

井上 さつき（愛知県立芸術大学・東京藝術大学等非常勤講師：オンライン）

#### 鈴木政吉氏の来歴から考えるバイオリンの里構想

- ・ バイオリンを通して関係する市と連携を探ると良い。松本市の他、浜松市、マルクノイキルヘンとの連携を検討してみてもどうか。
- ・ 様々な展示会や弦楽器コンクールなどの開催も検討してみてもどうか。
- ・ 市内の小学校で4年生全員がバイオリンを体験できることはとても素晴らしいので、来年度ぜひ実施してほしい。また、バイオリン授業を全国にPRをしてほしい。

小川 容子（岡山大学大学院教育学研究科副研究科長：オンライン）

#### 音楽教育学から考えるバイオリンの里構想

- ・ 北山小学校でのバイオリンの授業をモデル校として全国に発信してはどうか。ゲストティーチャーを招いたり、子どもたちによる演奏会を開催したりするなど、児童の演奏技術の向上を目指してはどうか。
- ・ バイオリンづくりの現場を見学するなどして、地域への興味や誇りの創出を目指してはどうか。
- ・ 全市民が社会の音に敏感になって、音や音楽と豊かに関わる環境を整えることで、耳の肥えた聴衆層を厚くすると良い。
- ・ 北山小学校でのバイオリンの授業は大変素晴らしい。バイオリンは、簡単には音がでないような難しい楽器だからこそ、さらなる挑戦や深堀りにつながる。授業を通して自分だけの課題を見つけて、子どもたちが課題解決に向け、挑戦してほしい。また、もっとバイオリンを演奏したいと思う子の受け皿があるといい。

近藤 薫（東京フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター）

#### 演奏者や先端アートデザインの立場から考えるバイオリンの里構想

- ・ 効率優先のまちづくりでは価値観が集約されてしまうと思う。本来芸術には正解というものが無い。効率だけを追求しない未来都市として、多様な価値観のある、芸術的な感性が根底にあるまちづくりが必要である。
- ・ 植えた木が楽器になるには、230年後になる。230年先を考え、他にはないサステイナブルなまちづくりが必要である。バイオリンというような長い時間をかけて作られるものを大切にしているという姿勢が大事ではないか。
- ・ ものづくりのまちである大府市のバイオリンの里、文化のまちである長久手市の文化芸術マスタープラン、刈谷市の刈谷国際音楽コンクールと連携し、多くの人を巻き込みながら芸術環境を作り上げてみてはどうか。

### 3 提言に基づき令和5年度予算化した主な事業

次の事業に必要な予算案を令和5年第1回定例会（3月議会）に上程します。

#### テーマ 人生100年時代を見据えた高齢者施策について

e スポーツプロジェクトの推進……………750 千円

おおぶオレンジサポーター活動や

普及啓発活動を実施……………84 千円

小児期からの認知症予防・理解の促進として、図書館子どもまつりや小学校福祉実践教室で啓発活動を実施……………8 千円



厚生労働省主催「第11回健康寿命をのばそう! アワード(介護予防・高齢者生活支援分野)」で、厚生労働大臣優秀賞を受賞

#### テーマ 環境問題への取組について

市民の環境配慮行動へのムーブメントを促せるよう、グリーンライフポイント制度を実施

……………389 千円

地域特性に適した地球に優しく、賢い行動を選択できるよう、COOL CHOICE 促進事業を実施

……………1,760 千円

電気自動車等充電設備購入費補助制度を創設

……………500 千円



電気自動車を公用車として導入

#### テーマ バイオリンの里構想の推進について

小学4年生を対象にしたバイオリンを取り入れた音楽授業を全校展開

……………1,262 千円

鈴木バイオリン製造(株)によるバイオリンの紹介・演奏……………120 千円

児童(老人福祉)センターで、バイオリン講座を実施……………1,528 千円

野外クラシックコンサートを開催……………3,400 千円

公益社団法人才能教育研究会（スズキ・メソード）との協定に基づいた事業として、スズキ・メソード共催コンサートを開催…………… 192 千円  
弦楽器をテーマとしたロビーコンサートを開催……………120 千円



北山小学校でバイオリンを取り入れた音楽授業を実施



野外クラシックコンサートの開催

### ※上の事業の他、歳出予算を伴わず事業化される見込みの提案

- ・脱炭素社会構築に向けた知多半島5市5町連携意見交換会の実施

令和5年2月8日 公開



**SUSTAINABLE HEALTHY CITY**

■問い合わせ

大府市企画広報課広報広聴係

電話 0562-45-6214

FAX 0562-48-4808

メール [koho-obu@ma.medias.ne.jp](mailto:koho-obu@ma.medias.ne.jp)